

小学校 社会

児童が単元を見通して学習に取り組む社会科学習の在り方
－単元の「学習計画シート」の作成・活用の工夫を通して－

三戸町立三戸小学校 教諭 戸 末 浩 之

要 旨

小学校社会科の学習において、児童が単元を見通して学習に取り組むために、単元全体と関わる導入教材を提示し、単元の学習計画を立てさせるとともに、単元の学習内容を構造化できる「学習計画シート」を作成・活用させた。児童は、単元を見通した学習問題や単元のねらいを考え単元全体の学習計画を立てることができた。また、「学習計画シート」を活用することで学習の進め方に見通しをもち、単元全体をふかんしたまとめをすることができるようになった。

キーワード：小学校 社会科 単元 見通し 学習計画 学習問題

I 主題設定の理由

平成20年1月に中央教育審議会より示された「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について（答申）」の、社会、地理歴史、公民の改善の基本方針には「社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に習得させ、それらを活用する力や課題を探究する力を育成する」とある。また、小学校社会科の改善の具体的事項には「作業的・体験的な学習や問題解決的な学習を一層充実させること」とあり、いずれも問題解決的な学習の大切さを述べていると捉えることができる。

一方、これまでの自身の指導を振り返ると、単元のねらいや学習問題をはっきりさせないまま、教師から児童に問題を提示し、また、それを解決するための具体的な手だてや方法を児童に示すことなく調べる活動をさせていた。そのために児童は、単元を通して何を解決し理解していけばよいのかを捉えることができないうまま学習を進めていた。また、学習問題に関係する資料を収集したり、資料から必要な情報を取捨選択・整理したりできないことが多く、学習問題に即した調べ活動をできないことも多かった。

このことから、問題解決的な学習のより一層の充実を図るためには、児童が学習に見通しをもって取り組む必要があると考えた。単元のねらいや学習問題をしっかりと捉え、それを解決していくための見通しをもつことにより、社会的事象に関しての知識や概念、技能を習得しながら、それらを活用する社会科の学習を進めることができると考え、本主題を設定した。

II 研究目標

社会科の学習において、単元のねらいや学習問題を理解し、その解決に見通しをもって取り組むことができる児童を育てるために、単元の導入で扱う教材を工夫したり、学習していく内容が構造化できる「学習計画シート」を作成・活用したりすることの有効性を、実践を通して明らかにする。

III 研究仮説

社会科において、次のような手だてをとることによって、児童が単元を見通して学習に取り組むことができるであろう。

- 単元の導入時に単元全体の学習内容につながる要素をもつ教材を児童に提示し、それを基に単元のねらいと単元で解決していく学習問題及び学習計画を考えさせ、それらを構造化して捉えることができる「学習計画シート」を作成させる。
- 学習していく内容が構造化された「学習計画シート」を活用して、単元を見通した学習のまとめをさせる。

IV 研究の実際とその考察

1 研究主題及び研究仮説に関わる基本的な考え方

(1) 単元を見通して学習に取り組むことについて

本研究における「見通して学習に取り組む」ことについて、以下のように捉えた。

- ・単元の導入段階と学習計画を立てる段階で、単元のねらいや学習問題を捉え、単元の学習計画を立てること。
- ・学習問題を解決する段階で、何を解決する学習かを理解して、どのような手順と方法で調べ活動を行っていけばよいのかを見通すこと。
- ・単元のまとめの段階で、学習してきたことを基にしながら、授業のねらいに即して学習内容を抽出し、比較・関連付け・総合しながら再構成すること。

単元を見通して学習に取り組むことで、毎時間の学習内容のつながりを考えることができ、児童は、単元のねらいに即して学習する力、社会的事象に関しての知識や概念・技能を習得する力、学習した内容を抽出し、比較・関連付け・総合しながら再構成する力を身に付けることができるのではないかと考える。

(2) 単元の導入時に単元の学習内容につながる要素をもつ教材を児童に提示することについて

単元のねらいや単元の学習内容を網羅する学習問題を児童がもつためには、導入段階での教材提示が重要になる。本研究において、そのような教材を次の点に留意して選択、開発した。

ア 教材を身近に感じながらも、意外性と驚きをもてる資料を提示する。

イ 教材を提示するに当たり、教材を捉える視点を与える。

ウ 単元の学習内容の中で、複数の時間と関連する教材を取り入れる。

このような教材を基に、一人一人が考えた疑問や知りたいことを観点別に分類する話し合いをすることでたくさんの考えが幾つかに集約され、学級として学習していく方向が見えてくると考えた。また、自分では気付かなかった事柄や視点を補うことができ、そのようにして考えた学習問題は、児童が学ぶ価値・調べる価値のある課題となり、単元のねらいが達成されるような学習問題をつくることができると考えた。

(3) 「学習計画シート」を作成させることについて

本研究で提案する「学習計画シート」は、単元のねらい、単元で学習する毎時間の学習問題とその予想、それに対するまとめと単元のまとめを記入できるように構成しており、単元全体の学習計画が構造化されたものである(図1)。毎時間の学習問題を一覧することができること、それについての予想、まとめが繰り返し書き込まれることで、児童が単元の学習に見通しをもつことができるとともに、単元を通して学習の仕方を身に付けることにつながると考えた。

「学習計画シート」は、学習に見通しをもたせるために、単元の導入時に作成する。作成の具体的な手順と期待される効果は次のとおりである。

ア 学習計画を立てるときに、児童の疑問や知りたいことを毎時間の学習問題の形に直して「学習計画シート」に記入させる。それにより、単元を通して学習していく内容を見通すことができる。また、単元のねらいも記入することで、単元のねらいとそれぞれの学習問題とのつながりや、毎時間の学習内容相互のつながりを意識しながら学習を進めることにつながる。

イ 毎時間の学習では、学習計画を立てるときに記入した学習問題に対する予想を書かせ、終末にまとめを記入させる。これを繰り返すことで、児童は授業の進め方に見通しをもつことができ、単元を通して学習の仕方を身に付けることにもつながる。

ウ 学習を進める中で、新たに単元で学習すべきと考えられるものについては、学習問題の形に直して、

単元名	目標達成する立場	項	審	氏名
疑問・不安・知らないこと・知っていること				
学習したいこと	学習問題			
学習問題				
予想				
まとめる				
まとめ				

図1 「学習計画シート」

随時「学習計画シート」に付け足しをさせる。こうした活動を取り入れることで、児童の学習の広がりや深まりに対応することができる。

(4) 構造化された「学習計画シート」を活用することについて

単元のまとめの段階では、「学習計画シート」には、学習してきたことが一覧できるように整理されている。それを基にして、単元全体をふかんした学習のまとめや振り返りができると考える。単元のまとめの授業では、ねらいに沿って毎時間の学習内容を抽出し、比較・関連付け・総合しながら再構成することに「学習計画シート」の活用が有効に働くと考える。

2 検証方法

「学習計画シート」に記入された、導入教材を基にして考えた疑問や知りたいことと、それらを観点別に分類する話し合いを経た後に考えた学習問題とを比較する。その内容が、導入時に提示した教材を基にした記入内容か、話し合いから見いだされた観点を生かしたものになっているかについて分析する。また、単元のまとめの学習に関わる内容、単元の学習の振り返りを記入させる。その内容が、毎時間の学習内容を抽出し、比較・関連付け・総合しながら再構成した内容になっているかについて分析する。さらに、「学習計画シート」を活用しなかった前単元と活用した本単元とでは、学習への意欲や見通しをもった学習への取組についてどのような変容が見られたか、児童への意識調査によって検証する。

3 検証授業について

(1) 単元名 「自動車をつくる工業」

(2) 単元目標

自動車生産に従事している人々は、効率よく正確につくるための工夫や努力を行って優れた製品を生産している。また、社会や消費者のニーズに応えるために資源の有効利用や環境保全にも取り組み、国民のより豊かな生活を支えていることについて理解できる。

(3) 単元指導計画（全12時間）

	主な学習活動
1	・ 自動車が生活に深く関わっていることに気づき、私たちの生活との関わりについてまとめる。
2	・ 自動車の見積もり体験をし、注文に応じて自動車が消費者に確実に届くことに気づき、それを可能にしている自動車工場の工夫に関心をもつ。
3	・ 「学習計画シート」に自動車づくりについての疑問や知りたいことを書き発表する。
4	・ 発表された内容を観点別に分類して幾つかにまとめ、学習問題の形にする。
5	・ 話し合いで決まった学習問題と単元のねらいを、「学習計画シート」に記入する。
6	・ 自動車をつくる工程やそこで働く人の工夫や努力について予想し、調べる。
7	・ 調べたことを発表し、組み立て工場と自動車がつくられる工程と工夫を整理し、まとめる。
8	・ 工夫や努力が何を目的に行われているかについて考え、まとめる。
9	・ 組み立て工場では、たくさんの部品をどのように調達しているか予想し、調べる。
10	・ 組み立て工場と関連工場の関わりや関連工場の工夫について整理し、まとめる。
11	・ 関連工場の役割についてまとめる。
12	・ 自動車が消費者に届けられるまでを予想し、調べる。
13	・ 自動車が組み立て工場から消費者に届くまでの仕組みについて整理し、まとめる。
14	・ 外国での現地生産と自動車における運輸の役割、自動車をつくる人以外の役割をまとめる。
15	・ 自動車の価格にどのような費用が含まれているかについて予想し、調べる。
16	・ 自動車の価格には様々な費用が含まれていることをまとめる。
17	・ 自動車づくりにおいて考えなければならない環境の問題について予想し、調べる。
18	・ 環境を考えた自動車や環境を考えた開発について整理し、まとめる。
19	・ 環境と自動車についてまとめる。
20	・ 人にやさしい自動車について予想し、調べる。
21	・ 人にやさしい自動車づくりについて整理し、まとめる。
22	・ 社会や消費者のニーズに応じた自動車の生産をしていることをまとめる。
23	・ 自動車生産と食糧生産の共通点について考え、グループで話し合う。
24	・ 単元を学習しての振り返りを書く。

4 考察

(1) 単元の導入時に単元の学習内容につながる要素をもつ教材を児童に提示することについて

ア 「学習計画シート」に記入された児童の疑問や知りたいことの内容の分析

単元の学習内容につながる要素をもつ教材として、導入段階で児童の家庭における自動車保有台数の平均、トヨタ自動車のホームページを利用した自動車の見積もり体験などの教材を提示した。それを基に、自動車をつくる工業についての疑問や知りたいことを「学習計画シート」に記入させた。表1は児童の疑問や知りたいことの内容が、どの程度教材との関連から考えられているかについて、観点ごとにまとめた結果である。一人の児童が複数の観点について記入している場合は、観点ごとに記入数を数えた。なお、疑問や知りたいことを考えられなかった児童はいなかった。

表1 「疑問や知りたいこと」の観点別記入内容の内訳

番号	観 点	記入総数
①	自動車の組み立て工場の様子や自動車がつくられる工程	32個
②	組み立て工場働く人たちの工夫や努力	10個
③	組み立て工場と関連工場の関わりやそこで働く人たちの工夫や努力	12個
④	自動車が消費者に届くまでの運輸の仕組みと現地生産	5個
⑤	自動車の価格と費用	2個
⑥	環境にやさしい自動車とその開発	4個
⑦	人にやさしい自動車とその開発	0個
⑧	導入時に提示した教材と関連した、自動車の生産に関わる内容	8個
⑨	導入時に提示した教材と関連はないが、既習事項を生かした内容	8個
⑩	その他	12個

番号の①～⑧は、導入時に提示した教材と関連のある観点で、①～⑦は本単元での学習内容である。この結果、記入総数の78.5%が提示された教材を基にして疑問や知りたいことを考えており、児童37名中33名が教材と関連する内容を一つ以上記入していた。このことから、単元の導入時に単元の学習内容につながる要素をもつ教材を提示することが、様々な疑問や知りたいことをもたせる上で有効であったと言える。

イ 「学習計画シート」に記入された学習問題の内容の分析

児童の疑問や知りたいことを観点別に分類するために話し合うことで、その後に児童が考える学習問題が、単元のねらいや学習していく内容に即したものになると考えた。

図2は、児童が考えた学習問題を表1の①～⑩の観点別にまとめて、「学習計画シート」に記入させた疑問や知りたいことと比較したものである。学習問題を複数記入したり、一つの学習問題に複数の観点が含まれたりしている場合は、一つの観点を1と数えて集計した。なお、学習問題を一つも考えることができない児童はいなかった。

児童が導入時に提示した教材から考えた疑問や知りたいことと、その後の観点別の話し合いから考えた学習問題の観点を比較すると、学習問題を考えたときに②、③、④、⑥の観点についての記入数が増え⑨及び⑩の観点についての記入数が減っている。

つまり、単元で学習する内容についての記入が増え、それ以外の内容についての記入が減っていると言える。このことから、一人一人の疑問を観点別に分類する話し合いは、その過程で、単元で学習していく内容について自分だけでは気付かなかった広い視点から考えることにつながり、単元のねらいや単元の学習内容を見通した学習問題をつくることに至ったと考えられる。

(2) 「『学習計画シート』を作成させる」ことについて

「学習計画シート」に単元のねらい、学習問題、予想やまとめが記入されていることが、毎時間の授業のつながりを考え学習することに役立ったかについて調べた結果が表2である。

「学習計画シート」を使わなかったとき、「とてもよく役立った」が11名だったのに対し、「学習計画

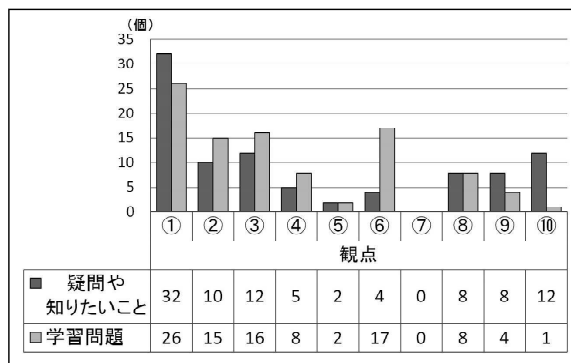


図2 「疑問や知りたいこと」と「学習問題」の観点別記入総数の比較

シート」を使ったときには18名と7名増になり、「あまり役に立たなかった」「全く役に立たなかった」と答えた児童が0名となった。

このことから、「学習計画シート」が、児童が毎時間の学習のつながりを意識しながら学習を進めることに有効であったと考えることができる。

(3) 構造化された「学習計画シート」を活用することについて

ア 単元のまとめにおけるノート記述の分析

単元のまとめの段階では「学習計画シート」に、単元で学習した内容が記入されている。そこで「学習計画シート」を基にして、自動車生産と食料生産の共通点を考える時間を設定した。

共通点について、単元で学習した内容を「学習計画シート」からどの程度抽出することができていたかを集計した。その際に「学習計画シート」がどのように活用されたかについても考察した。

図3は、「学習計画シート」を基に、共通点をいくつ考えることができたかについて調べた結果である。これを見ると、児童の多くが二つ以上の共通点を考えることができおり、平均3.28個の内容に触れていた。

表3は学習したことが記入された「学習計画シート」を、単元のまとめで活用することができたかについて調べた結果である。「学習計画シート」を使わなかった前単元の学習では「よくできた」が8名だったのに対し、「学習計画シート」を使った本単元では14名と6名増になっている。

児童は、学習してきたことが記入されている「学習計画シート」(図4)を活用し、図5のように共通する事柄をキーワードとしてノートに書き出し、自動車生産と食料生産のそれぞれでどのようなことがそれに当てはまるのかを考えていた。

表2 「学習計画シート」の有無による毎時間の学習内容のつながりについての意識の違い

問 学習問題をつくり学習計画を立てたことは、前や次の授業とのつながりを考え学習することに役立ったか。	前単元学習後 (学習計画シート無し)	本単元学習後 (学習計画シート有り)
とても役立った	11名	18名
少し役立った	26名	20名
あまり役に立たなかった	1名	0名
全く役に立たなかった	0名	0名

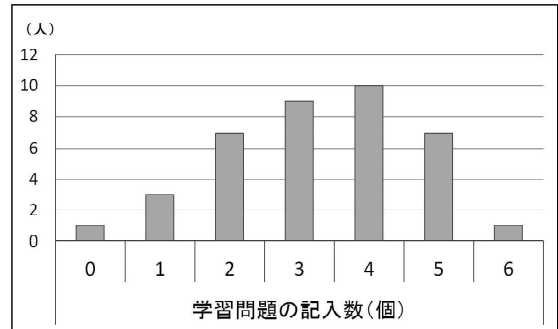


図3 児童が記入した自動車生産と食料生産の共通点の数とその人数

表3 「学習計画シート」の有無によるまとめに対する意識の違い

問 学習のまとめをするとき、調べたことを基にしてまとめることができたか。	前単元学習後 (学習計画シート無し)	本単元学習後 (学習計画シート有り)
よくできた	8名	14名
少しできた	22名	18名
あまりできなかった	8名	5名
全くできなかった	0名	1名

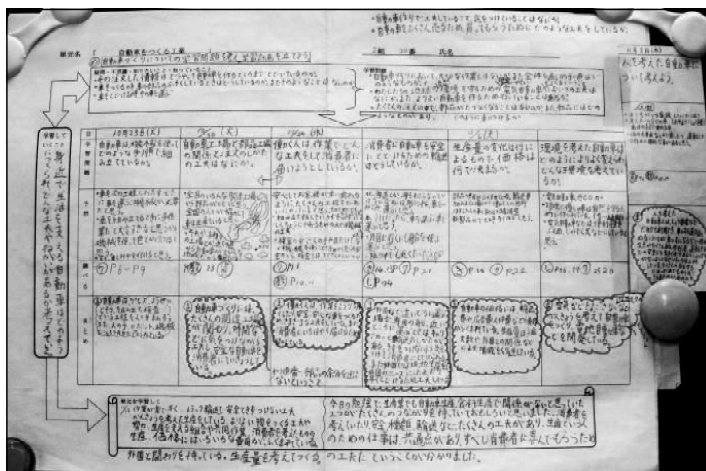


図4 まとめ段階の「学習計画シート」

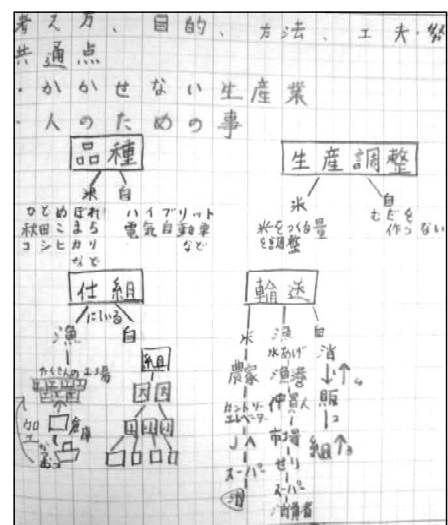


図5 共通点を考えた「ノート」

これらのことから、単元のまとめの段階において、学習した内容を抽出しながら考えたり、まとめる際には、学習したことが一覧となって整理されている「学習計画シート」は効果的であったと言える。

イ 「学習計画シート」に記入された単元の振り返りの内容の分析

単元のまとめの授業を終えて、単元の振り返りを「学習計画シート」に記入させた。以下は、「学習計画シート」に記入された児童の振り返りである。

私は、この学習をして、自動車はたくさんの人が関わって、正確に消費者のことを考え生産していることが分かりました。そして、前に勉強した「米づくり」や「水産業」にも自動車の学習と共通しているところがこんなにたくさんあったのですごかったです。三つの学習はどれも、消費者を考えて生産していることなどが分かりました。今日の学習は、これから勉強していく単元にもぜひ使ってみたいと思います。

児童は、自動車生産は「たくさんの人が関わって、消費者のことを考えて生産していることが分かった。」と書き、さらに食料生産の「米づくり」と「水産業」の学習と関連付けてまとめている。

このように、自動車生産と食料生産の共通点を「消費者を考えた生産活動」という視点から捉えている児童が複数名いた。このような記述は、単元の自動車工場で働く人の工夫や努力、環境や人を考えた生産という一つの学習内容の抽出ではなく、それらを関連付けたり、総合したりしながら再構成することによって考えることができた振り返りである。導入段階から「学習計画シート」を作成・活用してきたことで、児童の思考が単元を見通したものになっていたからこそ、気付くことができた視点である。

V 研究のまとめ

単元の導入時に単元の学習内容につながる要素をもつ教材を児童に提示し、観点別に分類する話合いの後に学習問題を考えたことで、児童が単元のねらいや単元で身に付けるべき内容に即した考えを記述することにつながった。

単元のねらいや学習問題が一覧となって整理され、構造化された「学習計画シート」を作成することは、単元の学習内容を見通して学習を進めることに有効であり、学習の進め方にも見通しをもつことができた。

「学習計画シート」に学習問題や学習のまとめなどが一覧となっていることで、学習している内容が他のどの内容と関連しているかを考えながら学習を進めることができた。

単元で学習してきたことが記入され、構造化されている「学習計画シート」を活用することで、自動車生産と食料生産の共通点を考えるときに、必要に応じて学習した内容を抽出することができた。さらに、「消費者を考えた生産活動」という単元の学習内容を見通した学習をすることにもつながった。

VI 本研究における課題

「学習計画シート」には、児童が授業の中で調べたことや板書を記入することができないため、細かな学習内容についての振り返りはノートと併用しなければならない。そのため、「学習計画シート」とノートの効果的な活用の仕方を工夫していく必要がある。

<引用文献>

中央教育審議会 2008 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について（答申）』 pp. 79-80

<参考文献・参考URL>

北俊夫 2008 「新教育課程と社会科の授業構想」 明治図書
「TOYOTA ～クルマ子どもサイト～」

<http://www.toyota.co.jp/jp/kids>(2013.1.23)

トヨタ自動車株式会社

<http://www.toyota.co.jp/>(2013.1.23)

森分孝治・片上宗二 2008 「社会科 重要用語300 の基礎知識」 明治図書

文部科学省 2012 「小学校学習指導要領解説 社会編（平成20年8月）」 東洋館出版社